

## 平成 22 年度学術情報委員会活動報告

### I. 会議等の開催状況

- ・第 1 回学術情報委員会（平成 22 年 7 月 22 日開催）
  1. 今年度の活動方針及び重点事項について
    - (1) 学術機関リポジトリに関して
    - (2) 国際 ILL (Global ILL Framework) に関して
    - (3) 電子環境下における新たな学術情報システムに向けた検討に関して
  2. 小委員会, プロジェクトチーム, ワーキンググループの設置について
  3. 国立情報学研究所への要望書 (案) について
- ・第 2 回学術情報委員会（平成 22 年 9 月 16 日開催）
  1. 「公的資金による研究成果の公開」シンポジウム(12 月 10 日)の開催について
  2. 電子環境下における新たな学術情報システムに向けた検討
  3. 学術情報システム検討小委員会の設置について
- ・第 3 回学術情報委員会（平成 22 年 11 月 10 日開催）
  1. 秋季理事会への委員会活動報告について
  2. 研究成果公開に関するシンポジウム開催について
  3. 学術機関リポジトリ WG の活動状況について
  4. GIF プロジェクトチームの活動状況について
  5. 学術情報システム検討小委員会の活動状況について
- ・第 4 回学術情報委員会（平成 23 年 5 月 13 日開催）
  1. 理事会への委員会活動報告について
  2. 学術情報委員会の今後の活動課題について

### II. 活動内容

#### 1. 学術情報委員会の活動について

今年度は、①「学術機関リポジトリ」、②「国際 ILL (GIF(Global ILL Framework))」、③「電子環境下における新たな学術情報システムに向けた新たな検討」の 3 点を中心に取り組みを行うこととした。

学術機関リポジトリに関しては、「学術機関リポジトリに関する要望書」を作成し、8 月 10 日付けで国立大学図書館協会から国立情報学研究所へ提出すると共に、リポジトリ理解促進のため「学術機関リポジトリワーキンググループ」を設置し、「SCPJ プロジェクト」と共同で学会向け広報資料「機関リポジトリとは？」を作成し、国内学会に頒布した。また、公的資金による研究成果公開の義務化促進に向け、シンポジウム「大学からの研究成果オープンアクセス化方針を考える」を国立情報学研究所と共催で 12 月 10 日に開催した。

国際 ILL (GIF(Global ILL Framework))に関しては、「GIF プロジェクトチーム」を設置し、業務担当者コミュニティのサポート、ヘルプデスク機能の充実を図った。

電子環境下における新たな学術情報システムに向けた検討に関しては、これまでの

NACSIS-CAT/ILL と大学図書館のシステム化を機軸とする学術情報システムの役割と機能について検討し改善方策を立案するため「学術情報システム検討小委員会」を設置し、検討を開始した。

## 2. 学術機関リポジトリワーキンググループの活動について

### 1) 経緯及び活動概要

平成 22 年度第 1 回学術情報委員会において学術機関リポジトリの広報資料の作成を任務として設置され、大学向け、学会向けの 2 種類の広報資料作成を検討した。

大学向け広報資料については、WG 委員所属機関を含む数大学からの報告により、印刷物による一般的な広報資料は、事業初期段階におけるリポジトリの認知度向上には有効だが、論文登録促進の効果は期待しがたいことがわかった。継続審議の上、有効で実用的な発案は得られなかったため、作成を見送ることとした。

学会向け広報資料については、「SCPJ プロジェクト」（筑波大学ほかによる国内学会の著作権方針調査プロジェクト。大澤委員（筑波大学）が担当）から連携の提案があり、効果、効率の観点から、合同で広報資料「機関リポジトリとは？」を作成し、平成 23 年 2 月、2,462 の国内学会に頒布した。印刷・送付経費は SCPJ プロジェクトと折半した。

加えて、12 月 10 日開催の国立情報学研究所及び国立大学図書館協会共同主催のシンポジウム「大学からの研究成果オープンアクセス化方針を考える」の企画に協力した。

### 2) 会合等記録

- 7 月 22 日 ワーキンググループ設置
- 7 月 23 日 メーリングリスト設置
- 8 月 23 日 ワーキンググループ打ち合わせ（於・国立情報学研究所）
- 8 月 24 日 SPARC Japan セミナー参加
- 8 月 30 日 国立情報学研究所との合同シンポジウムの企画検討開始
- 12 月 10 日 シンポジウム「大学からの研究成果オープンアクセス化方針を考える」開催
- 2 月 学協会向け広報資料「機関リポジトリとは？」頒布

## 3. GIF プロジェクト、GIF ワーキンググループの活動について

### 1) 会議開催状況等

日常的運用課題、参加館担当者からの問合せや料金決済トラブルへの対応等について、北米側対応機関 NCC の ILL/DD 委員会担当者と連携しながら、メーリングリストにより意見交換及び協議を行った。

上記のような対応方法やその他関連事項に関する照会先を、プロジェクトメンバー宛ではなく、GIF 参加館担当者のメーリングリストとすることで、トラブルシューティングの過程等を可視化、業務担当者間で共有化した。

### 2) GIF プロジェクト活動報告

#### (1) 日米 ILL/DD プロジェクト

- ① 文献複写サービス参加状況

参加機関数は、平成 23 年 4 月 1 日現在、日本側 159、米国側 81 であり、平成 22 年 8 月以降、日本側が 4 館の増加、米国側は変動なしの状況である。

② 現物貸借サービス参加状況

参加機関数は、平成 23 年 4 月 1 日現在、日本側 87、北米側 46 であり、平成 22 年 8 月以降、日本側が 3 館の増加、北米側は変動なしの状況である。

③ 日米 ILL/DD 実施状況

平成 22 年度 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日までの日米 ILL/DD の実施状況は、表 1 のとおりである。前年に比べ、依頼件数で 139 件減、受付件数で 284 件減、縮小傾向が続いている。日本側受付分の謝絶率は 67.5% である。(56.8% (17 年度) →66.7% (18 年度) →66.3% (19 年度) →73.0% (20 年度) →67.8% (21 年度))。一方、日本側依頼分の謝絶率は 45.6% である。(45.1% (17 年度) →51.4% (18 年度) →58.6% (19 年度) →45.2% (20 年度) →49% (21 年度))

表 1 日米 ILL/DD 実施状況 (平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月)

	依頼件数				受付件数			
	完了	謝絶	その他	計	完了	謝絶	その他	計
文献複写	709	547	0	1,256	375	534	0	909
現物貸借	168	187	0	355	184	629	0	813
合計	877	734	0	1,611	559	1,163	0	1,722

(2) 日韓 ILL/DD プロジェクト

① 参加状況

参加機関数は、平成 23 年 4 月 1 日現在、日本側 115、韓国側 286 館となっている。平成 22 年 8 月以降、日本側で 2 館、韓国側で 3 館の増加となっている。

② 日韓 ILL/DD 実施状況

日韓 ILL/DD は平成 16 年 11 月から暫定サービスが開始され、平成 19 年 4 月からは ISO ILL システム間リンクによる本格運用に移行している。平成 22 年度の 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日までの日韓 ILL/DD の実施状況は、表 2 のとおりである。前年に比べ、依頼件数は 49 件増、受付件数は 32 件増、依頼・受付とも増加傾向を示した。謝絶率は依頼分が 29.1% で昨年度 (32.4%) からさらに改善された。受付分においては 32.1% で昨年度 (27.1%) より高い。一貫して、日本側受付件数が依頼件数を大きく上回っている。

表 2 日韓 ILL/DD 実施状況 (平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月)

	依頼件数				受付件数			
	完了	謝絶	その他	計	完了	謝絶	その他	計
文献複写	61	25	0	86	1,987	939	0	2,926

### (3) 今後の課題

国際 ILL 担当者における業務的位置づけの不断の確認と継続的な業務スキルの向上

## 4. 学術情報システム検討小委員会の活動について

### 1) 小委員会設置経緯

国立情報学研究所の「目録所在情報システム」を中核とする「学術情報システム」は、優れた構想とシステム設計により大学図書館の業務及びサービスの中核的な役割を果たしてきた。しかしながら、この数か年に急速に進展した電子ジャーナルや電子的メディアの爆発的増大には、システム面でも、運用面、組織面でも十分な対応が困難な状況にある。

このような状況にあって、今後、電子化のさらなる展開が予想される中で、電子環境下における新たな学術情報システムの役割と機能、更に運営体制について、全体的な検討と改善方策を見いだすために、小委員会が設置された。

### 2) 小委員会における主要な検討経過と事項

小委員会では、当初、広範な議論を行い、論点整理の結果、今年度は、以下に記した主要な点に絞り検討を深めた。検討過程で、本件に関係の深い国立情報学研究所の学術コンテンツ運営・連携本部 図書館連携作業部会 WG1 との合同会議も行い、意見交換を図った。本小委員会における検討結果は、別途「報告書」にとりまとめた。

検討した事項、検討結果については、「報告書」に記しているが、主な事項は、次のとおりである。

- ① 電子ジャーナルの大学間共用（資源共有）の可能性、在り方と、共有のための目録所在情報（総合目録）の構築方法
- ② 大学の各部署から行われている情報発信の相互連携の必要性と、そのための関連システム間のデータ交換の標準化の意義
- ③ 将来に向けた国立情報学研究所及び大学図書館における業務・サービスの持続的遂行のための体制・組織の在り方、人員育成の方策
- ④ 関連事項として、近年、急速に普及している「電子ブック」が図書館機能へ与える影響

これらの事項は、それぞれが大きな広がりと深さを持つものであり、今回の報告書は、論点整理と方向付けについてのいわば「中間報告」となった。平成 23 年度においても引き続き検討を進め、単なる検討、議論に終わらない具体的に実現が可能な提案、提言を取りまとめる必要がある。

### 3) 小委員会開催状況

(会場は、第 6 回（東京大学）以外は、国立情報学研究所)

第 1 回(10 月 6 日)

第 4 回(12 月 7 日) 国立情報学研究所図書館連携作業部会 WG1 合同会議

第 2 回(10 月 22 日)

第 5 回(1 月 20 日)

第 3 回(11 月 12 日)

第 6 回(2 月 24 日)

### Ⅲ. 委員構成(平成 23 年 3 月 31 日現在)

#### 1. 学術情報委員会

松浦	好治	(名古屋大学附属図書館長)	(委員長)
逸見	勝亮	(北海道大学附属図書館長)	
杉田	茂樹	(小樽商科大学学術情報課長)	
関川	雅彦	(筑波大学附属図書館副館長)	
大場	高志	(一橋大学学術・図書部長)	
家富	洋	(新潟大学附属図書館長)	平成 22 年 11 月 1 日から
矢田	俊文	(新潟大学附属図書館長)	平成 22 年 10 月 31 日まで
井上	修	(新潟大学学術情報部長)	
栃谷	泰文	(名古屋大学附属図書館事務部長)	
高島	学	(福井大学学術情報課長)	
相原	雪乃	(京都大学附属図書館情報サービス課長)	
米澤	誠	(国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長)	
(事務)			
高木	昭	(名古屋大学附属図書館情報管理課長)	
次良丸	章	(名古屋大学附属図書館情報管理課課長補佐)	

#### 2. 学術機関リポジトリワーキンググループ

杉田	茂樹	(小樽商科大学学術情報課長)	(主査)
鈴木	雅子	(北海道大学附属図書館学術システム課係長)	(システム管理担当)
大澤	類里佐	(筑波大学附属図書館情報管理課専門職員)	
久保	智靖	(福井大学学務部学術情報課企画管理係長)	
加藤	淳一	(名古屋大学情報推進部情報推進課学術情報システム掛)	

#### 3. GIF プロジェクトチーム

大場	高志	(一橋大学学術・図書部長)	(主査)
井上	修	(新潟大学学術情報部長)	
相原	雪乃	(京都大学附属図書館情報サービス課長)	
森	恭子	(東京大学大学院理学系研究科等総務課係長)	(理学部物理学図書室)

#### 4. 学術情報システム検討小委員会

栃谷	泰文	(名古屋大学附属図書館事務部長)	(委員長)
米澤	誠	(国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長)	(副委員長)
熊渕	智行	(筑波大学附属図書館情報サービス課長)	
高橋	努	(東京大学工学系・情報理工学系等情報図書課長)	
加藤	さつき	(東京外国語大学学術情報課資料サービス係長)	
小野	亘	(一橋大学学術情報部学術情報課主査)	